

事務事業名	有害鳥獣捕獲奨励事業	所属部	農林振興部	所属課	林業畜産課	
総 計 画 体 系	政策名	<V>挑戦し活力を産みだすまち<産業>		所属G	林業グループ	
	施策名	<34>農業の振興		担当者名	荒木公栄	
	目的:対 象	市内の農家	意 図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農 業所得が向上する。	電話番号	0854-40-1050 (内線) 2413
	基本事業名	<097>農業基盤の整備・保全		予算科目	会計 款 大事業 大事業 0 1 3 0 0 2 業名 項 目 中事業 中事 1 0 1 5 0 1 業名	
目的:対 象	担い手農家をはじめとする農家	意 図	働きやすい環境で、農業の生産性が維持・向 上する。	林業振興事業	有害鳥獣捕獲奨励事業	

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
鳥獣による農作物被害を防止するため鳥 獣の駆除等を行う事業。 【主な事業内容】 ①被害状況の確認・駆除の依頼 ②駆除班による有害鳥獣駆除の実施 ③捕獲鳥獣の確認 ④捕獲報償金等の支払い

(2) 事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動					
	R2年度実績(R2年度に行った主な活動) ・有害鳥獣の駆除に係る事務 ・有害鳥獣捕獲報償金及び活動費の支払い 等 ・鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業推進交 付金を活用し、鳥獣被害防止対策を強化。	R3年度計画(R3年度に計画する主な活動) ・令和2年度に同じ				
	② 活動指標	単位	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
	ア 駆除申込件数	件	6	6	6	6
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
	雲南市有害鳥獣駆除班 有害鳥獣 農家 農作物	ア 駆除班員	人	170	181	184	193
		イ 農家数	戸	3,894	3,894	3,894	3,894
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
	有害鳥獣の捕獲等を行い農作物被害防 止に努めることで、農家が安心して農業で きる環境を整える。	ア 有害鳥獣駆除頭数 (イノシシ・カラスなど)	頭・ 羽	2,384	2,162	3,008	2,150
		イ					
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (2年度決算)	② コストの推移	単位	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(計画)
■ 鳥獣駆除頭数 3,008頭 (イノシシ2,438頭、サル30匹、シカ14頭ほか) ■ 有害鳥獣捕獲報償費:56,079千円 (うち国上乗せ分:6,592千円) ■ 有害鳥獣活動費等補助金:2,176千円 ■ 消耗品ほか:399千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円	8,953	6,130	6,592	7,200
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	43,130	39,879	52,062	31,521
	事業費計(A)	千円	52,083	46,009	58,654	38,721
	人件費	人	2	2	2	
	正規職員従事人数	人	2	2	2	
	延べ業務時間	時間	1,025	1,000	1,000	
	人件費計(B)	千円	4,440	4,240	4,208	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	56,523	50,249	62,862	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対 象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始 時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革 改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対し て市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見 や要望が寄せられているか?)
依然として有害鳥獣による農作物被害が 多い。銃による駆除者は減少しているが、檻 等による駆除者は増加傾向にある。 また、多くのクマの目撃報告が寄せられ、 加えてシカの目撃も発生しており、今後の被 害の拡大が懸念される。	捕獲報償費について猟友会との協議の 結果、平成28年度にイノシシの報償金を 20千円に統一した。(平成27年度以前: 檻10千円、檻以外25千円) 平成25年度から国の交付金をを活用し て、駆除対策を強化している。	農家・議会等から、有害鳥獣駆除への更なる注 力と、被害防止対策の拡充を求める意見がある。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？	見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合 →	
B 有効性	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
C 効率性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 有害鳥獣対策は捕獲だけでなく、防除と予防対策を同時に推進する必要がある。集落に野生鳥獣を寄せ付けない予防対策と、農地等に被害を与える野生鳥獣の適切な駆除が求められている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	理由 事業を廃止すれば鳥獣被害が増加して農家の生産意欲の著しい低下を招き、耕作放棄地が多く発生し、ひいては集落の崩壊等につながる。
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由 類似事業はないため他に手段はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 鳥獣被害の抑制及び計画的な個体数調整を実施していくためには、これ以上の事業費の削減余地は難しい。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？	理由 平成28年度からの組織機構の見直しに伴い、捕獲鳥獣の確認を写真と部位の提出にすることとした。その結果、現地確認を行うことはなくなったが、書類の整理、提出部位の回収等の業務が増えた。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 有害鳥獣を駆除し農作物への被害防止を図ることは市内農家と市の農業振興に必要であり、受益者負担は公平公正である。
	⑩ 1次評価者としての評価結果	⑪ 1次評価結果の総括(根拠と理由)
評価 の 総 括	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	依然として鳥獣被害が減少しない実情である。また、多くのクマの目撃が情報が寄せられている。こうした状況を打開するため、駆除はもとより、農作物を守るため被害防除のほか、集落に野生鳥獣を誘引する要因の把握や除去などの予防対策にも力を入れていく必要がある。
	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	② 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<ul style="list-style-type: none"> ・駆除と同時に、市民に対し適切な防除や予防方法についての周知・普及を関係機関と連携して行う必要がある。 ・中山間地域研究センター及び東部農林振興センター雲南事務所等、関係機関の指導のもと有害鳥獣の生息調査などを行い、雲南市有害鳥獣駆除班と連携を密にし、駆除の効率化に努める必要がある。 ・近隣市町の日撃状況等を鑑み、平成27年度よりシカ及びアライグマの捕獲活動を開始した。特にシカについては、市内でも目撃情報が増加傾向にあることから、引き続き実施していく必要がある。 	廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																					